

保険で良い歯科医療の実現を 求める署名提出集会

2018年1月25日 衆議院議員第1議員会館 大会議室

314,020筆を集約

- 「保険で良い歯科医療を」全国連絡会は、全国保険医団体連合会との共催で、「2018年診療報酬改善・保険で良い歯科医療の実現を求める署名提出集会」を開催しました。医師・歯科医師、歯科医療関係者、市民、患者ら170人が参加し、衆参国会議員20人もかけつけました。



- 今回取り組んだ署名は、32万4,020筆に達しました。署名の要請項目は、①窓口負担の軽減、②歯科医療の保険範囲の拡大、③歯科医療に関する国の予算増額の3点です。
- 歯科署名は、国会行動を開催した1月25日に自民、立憲、希望、民進、共産、社民、無所属の国会議員に提出しました。



- 集会の冒頭、歯科技工士でもある雨松真希人全国連絡会会長は、「学校歯科検診で矯正が必要と言われた子どもが、治療費が高額なためにできない現実がある。子どもは親を選べないのにおかしい。技工士になってから、国保料の高さに驚いた。それを支払ってもさらに、歯科医院では窓口負担がかかり、保険のきかない治療が多い。納得できない」と、自身の感じる歯科医療の問題点を率直に話しました。さらに、「歯科医院に行きたくても行けない人々、歯科医療を受けたくても受けられない人々のために、この運動を前進させよう」と呼びかけました。

集会では、歯科医療に関する全国の取り組みが交流されました。

歯科矯正に補助金求め知事と懇談



- 山梨で、子どもの歯科矯正への保険適用を求める運動を続けている小尾直子さんは、12月末までに、山梨県内の8市町村で請願が採択された。と報告しました。県独自の補助金の創設を求め、県知事と懇談する予定だとしました。

技工士の5年離職7割超

大阪の歯科技工士・西川勝美さんは、歯科技工士は異常な長時間労働、低賃金であり、資格を取得した若者の7～8割が、5年の間に離職している現状を告発しました。全国連絡会や保団連が技工所アンケートや歯科医師と技工士の意見交換などを行ってきたことで、技工問題への取り組みが全国的なものになってきたと、期待を寄せました。

患者さんに署名 広がる

福岡の平良幸秀歯科医師は、保険で良い歯科医療の運動の歴史と成果をまとめたDVDを作成し、署名に取り組んだことを報告。以前には「歯医者はおもうかっているから署名はやらん」と言っていた患者が、家族にも署名を呼びかけるようになったという経験から、「保険でよい歯科」を求める取り組みへの理解が広がってきたと感じていると語りました。

埼玉の歯科衛生生・永井直子さんも、診療後に患者に署名をお願いしていると、「白い歯を入れたいから、保険の範囲が広がるといいですね」などの声がありうれしいと、診療所での取り組みの様子を紹介しました。



集会で挨拶した 国会議員 その①



集会で挨拶した 国会議員 その②

